

第1部会

【住環境の課題と解決策について】

分散から集約へ

- ・ 町役場を決め、その周辺に集約化していく。
- ・ 町民が気軽に集まることができる施設を整備(役場の近くに)
- ・ 避難先のエリア毎にシステムや人材を組織化することも考えられる。
- ・ 双葉郡8ヶ町村で集まって住む、復興公営住宅を整備する。
- ・ 字、大字単位のコミュニティで復興公営住宅を整備。
- ・ 県内でコミュニティが再生されれば、県外から戻る人も増えるのではないかな?

借上げ期限

- ・ 借上げ期限(2年)のその後が不透明。
- 借上げ期間の明確化が必要。

復興公営住宅の整備

- ・ 役場周辺(二本松 IC 付近?)に復興公営住宅を整備。
- ・ 農地に復興公営住宅を整備する。
- ・ 除染に長期間を要するのであれば、復興公営住宅の整備には早く着手すべき。
- ・ これまでの生活を考えると戸建て住宅がよい。

今後の課題

<就業・雇用の課題>

- ・ 仕事のないところには帰れない。仕事の確保が第一。
- ・ 避難先で農業を始めている人は戻らないだろう。
- ・ 酪農家は帰れないだろう
- ・ 新たな企業の誘致は難しいのではないかな? また、誘致されても転職の不安がある。
- ・ 双葉郡内に代替エネルギー基地を整備し、雇用の場を確保。
- 8ヶ町村で国に要望。
- ・ 失業対策事業で雇用の場を確保する仕組みの構築はできないかな?
- ・ 除染や復旧・復興に町民が直にたずさわられるようにする→雇用の場づくり「復興会社」の設立。

<集約の課題>

- ・ どの地域に、どの程度の復興公営住宅を整備するのか?
- ・ 高校集約で親子が離れて暮らすのは問題。
- ・ 線量が低くても、教育等を考えると町内での集約は難しい。津波の心配もある。

<その他課題>

- ・ 通常の経済システムや労働環境をすぐに再生・整備するのは困難。「生きがいつくり」等の別の価値観が必要ではないかな?
- ・ 国による区域の見直しをふまえて住居について議論すべきではないかな?

【復興ビジョンについて】

総論

- ・ 方向性を示す「復興ビジョン」は必要→区域区分を「復興ビジョン」に反映させることが必要。
- ・ 帰還のメッセージを明確に発信する。
- ・ 復興計画をまとめるためには専門家を集め、国、県を交えて議論すべき。
- ・ 区域区分に従って、復興計画で財源も明確にしていく必要がある。
- ・ 高齢者しか帰らなければ税収はない。国頼りでは財源に限りがある。

【原子力災害からの復興に関する課題と解決策について】

除染

- ・ 線量の低い役場周辺等に拠点を設け拡大していく。除染が進んでいることを実感できるように、できる場所から進める。
- ・ 方法を検証して、最善の除染が重要。また、除染効果を町がしっかり把握することが必要。
- ・ 除染は、優先順位、スケジュールを明確にして進めるべき。
- ・ 早く着手。5、6年も待たせたら帰らない。
- ・ 低線量の地域は町民自ら除染する。
- ・ 将来像を具体的に示したうえで、除染の実施を国に求めるべき。

除染についての課題

- ・ 除染の効果は理解できた。山林の除染が課題。
- ・ 除染した後のまちづくりの方向を示してほしい。
- ・ 水源地の汚染が心配。→水質の継続的なモニタリングが必要
- ・ 帰還、補償の将来が見通せず、心が定まらない。
- ・ 区域再編をみないことには、判断できない。
- 区域再編が示されると、ある程度帰る、帰らないの判断ができるのだが。。。

## 第2部会

### 【住環境の課題と解決策について】

#### 現在の住環境の問題点

- ・仮設住宅はプライバシーがない。せまい。
- ・学生、仮設住宅の中に勉強する環境がない。
- ・人によって住まいの質に差があり、不公平感がある。
- ・ご近所付き合いや気軽に話ができる相手がいない。
- ・進学、就職その他生活全般について選択の幅が狭められている。
- ・浜通りの見慣れた景色が懐かしい。そこに戻りたい。
- ・バラバラに散らばっている。
- ・理想は、避難する前の人間関係（顔見知りの関係）が保たれた集約。

#### 分散から集約へ

- ・バラバラになっている町・町民を一定程度集約する必要がある。
- ・行政区をベースに集約するのがベスト。
- ・戸数が少なすぎるとコミュニティが成り立たない。少なくとも1000戸単位で集約しないと×。
- ・自治会長の集まりを設けて議論する場がほしい。

#### <集約の課題>

- ・移転するのは肉体的にも精神的にも負担が大きい。  
→必要最小限に留めるべき。
- ・国、東電は移転のための金銭的な補償をしっかりと用意すべき。
- ・スピーディに実施することが重要。期間が長くなると町に戻らない町民も出てくるのではないかと。またバラバラと移転すると限界集落が発生する。
- ・避難先で新しい生活が始まり落ち着いてきている状況。動きづらい人も多いのではないかと。
- ・土地の区画整理が必要・・・町力だけでは限界がある。
- ・集約のためには「動きたい」「戻りたい」と思える環境作りが不可欠  
→“魅力的なまちづくり”

#### 魅力的なまちづくりに向け

- ・相当額の予算が必要。
- ・戻るとしても公共施設、インフラ、商店街、働ける場所・・・一定のキャパシティと水準を持っていないと町として成り立たない。
- ・魅力的なまちづくりのためにはただ単に町へ帰ろうではなく“新しい浪江町”を作るという発想で進めていかないとダメ。
- ・魅力的な町を作るには強力なリーダーシップが欠かせない。

- ・コミュニティの集約にあたっては「浪江町エリア」と「浪江町の外のエリア」の二通りを想定しておく必要がある。
- ・浪江町外別に新たな町を作る必要があるのではないかと。
- ・住民一人一人が復興しないことには本当に意味での復興にはならない。そこを目指すべき。

### 【原子力災害からの復興に関する課題と解決策について】

#### 除染

- ・人が住む地域だろうがそうでなかろうが除染は必要。
- ・放射線量が低くなったからといってすぐに帰る、という気持ちにはなれない。本音はすぐにでも戻りたいが、どこに線量の高いエリアがあるか分からない。
- ・農地の除染をやる意味があるのか。農作物を作れる農地に戻せるか疑問。
- ・放射線量によって3つのエリアに区分する場合、境界線に屏でも作るのか。エリアが明確になってないと危険。

#### 除染についての課題

- ・住民を交えた議論を行い、細かな作業計画を作った上で進めることが重要。
- ・予算的なことを考えれば全て元通りとするのは不可能。メリハリをつけて除染を行い、低線量地域にコンパクトシティ整備する。
- ・除染は急ぐと無理が生じるので計画性をもって確実に実行することが重要。経済的な面はある程度思い切ってやらないといけない
- ・線量マップを見る限り常磐線の東側が戻る先としては現実的なエリア。実情に応じた細かな検討の上で実施する必要あり。

### 第3部会

#### 【住環境の課題と解決策について】

##### 現在の住環境の課題

###### <仮設住宅の課題>

- ・仮設住宅はプライバシーがない。
- ・仮設はせまい。特に浴槽がせますぎる。
- ・雪が降り始めてから、仮設の人は外に出なくなった。夏ごろの活動はどんどん減っている。
- ・借上げ入居者の中には、仮設を倉庫代わりに使っている人もおり、不公平感がある。
- ・住環境が悪く、家族の仲も悪くなっている世帯もある。
- ・24時間茶の間的に使える集会所を。(鍵が17:00にかかってしまう。)

###### <借上げ住宅の課題>

- ・近所づきあいが困難。高齢者のコミュニティや人付き合いが心配。隣近所がないので、転居した人もいる。
- ・借上げ住宅には物資がこない。
- ・神奈川県では、避難者への支援が手厚いため、特に不自由はしていない。

##### 分散から集約へ

- ・分散避難が長期化すると浪江町民としての意識が薄れていっていますのでは?→もう少しまとまった形で集約していく必要がある。

##### 借上げ住宅

- ・借上げに住んでいる人も、町民同士で情報交換できる仕組みを構築すべき。
- ・仮設・借上げの負担は町・県ではなく、原因者の東電が負担すべき。→浮いた財源を別の支援に。

##### 復興公営住宅の整備

- ・仮設での長期間の生活は耐えられるものではない。復興公営住宅へ迅速にシフトすべき。
- ・復興住宅など、もっと質の高い住居へ。
- ・持家だった人は持ち家に早く移行させていくべき。
- ・浪江の低線量地域にも住宅団地を整備して、帰りたいと考える人がいつでも帰れる環境を作っていく。
- ・もう少しのびのびとした環境でくらしければと思う。
- ・復興公営住宅の仕様は町民の意向で決めるべき。
- ・津波被災地の方の意向も踏まえて住居の計画を立てるべき。

##### 今後の課題

- ・住宅を購入する人に対しても、ローン返済を補償すべき。(借上げの家賃をローンへ振替える)
- ・財物の賠償を早く進め、次のステップにいくべき。
- ・飯館の見守り隊のような町内防犯の仕組みづくりと、月1回程度仮設等を巡回してくれる巡回員のような仕組みが必要。
- ・二本松と浪江とでの2重生活になる人もでてくるはず。何か支援策を考えるべき。
- ・区域の見直しをするのであれば、その区域の人への具体的な支援策もセットで提示されるべき。
- ・住環境と同時に生活サイクルの再生など、自立できる仕組み、支援が必要。(働いている人よりも働かないでいる人のほうが得する(補償100%+失業保険)仕組みでは誰も働かなくて当然。)

#### 【原子力災害からの復興に関する課題と解決策について】

##### 除染

- ・帰る、帰らないの議論とは別に、除染は必要ではないか?  
→帰る、帰らないは個人の判断。ただ、どちらの選択もできるような環境を整備するべきである。
- ・低線量地域から除染を進め、1 mSv/y以下の地域を優先的に作っていくべき。
- ・みんながそれぞれの意思でバラバラに帰ったら、虫食いの空洞化の町になってしまう。→低線量地域にコンパクトシティ整備する。(区画整理事業や換地も実施する。)
- ・高速も早い時期に通して、近隣にもすぐ行ける交通網も整備する。
- ・双葉郡を地図から消したくない!!

##### 除染についての課題

- ・除染のモデル事業を見てきた。線量は1/5程度に下がっていたようだが、土が大量に出ていた。町内全域の除染となった場合の土はどうするのか?
- ・除染は技術的には可能だろうが、以下の2点から個人的には不可能だと思っている。①効果が1回では薄いのではないか?②巨額の予算が必要である。  
→除染費用は補償に回すべきではないかと思う。